

体型測定値の分布と既成服サイズの比較

兵庫県生活科学研究 ○柴田 祥江 桜井 啓吉 武庫川女大家政 林 泰子

目的 高齢婦人の既成服は質量共に充分とはいえ、現行JIS「成人女子用衣料のサイズ」も59才以下の成人女子体型データに基づき作成され、高齢婦人の既成服サイズの規格化は遅れている。そこで今回は、第1報「高齢婦人の体型把握—身体計測値の主成分分析」に続いて、高齢婦人の体型測定値より、市販の既成服サイズについて検討した。

方法 第1報で報告した計測値（マルチン法により測定、被験者62名—65才以上平均年齢72.6才）にクラスター分析を施し、体型分類をした上で主な項目の体型測定値の分布図を作成、市販の既成服（8～14号の偶数サイズのもの、9号、13号のもの）を試買し、サイズについて比較検討した。

結果 高齢婦人の体型を、①平均的体型、②太めのタイプ、③やせのタイプ、④背が高いタイプ、⑤背が低いタイプ、の5つに分類した。タイプ名は高齢婦人としての体型を表し、総体として背は低めであり、④のタイプでも平均身長151.8cmである。

試買品のサイズの中に含まれていた人は、胸囲—身長については31%で、身長が高いという人より、低い人の方が圧倒的に多かった。高齢婦人では胸囲など幅があっても身長が低いという特徴があり、現行サイズではカバーしきれない。胸囲—胴囲の分布については45%の人が含まれ、胸囲—腰囲の分布については28%の人が含まれていた。

実際の着用テストでも全体的に着丈、袖丈といった縦寸法が長すぎ、とくにスカート丈、前丈が長く、スカートの前が下がった感じになったものが多い。逆に背中が前屈した体型がカバーしきれず、後身頃の長さが足りないものがあった。

現行サイズは、背が高ければ、胸囲も大きいという考えで定められているが、高齢婦人では、身長と胸囲の間の相関係数も低く（0.0001）現行サイズにはずれる人の方が多い。